学校番号	３０２

平成 31 年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校美術Ⅰ　（日本文教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・様々な「絵画・彫刻」「デザイン」「映像メディア表現」など、多種多様な作品を知り、自身の表現を深めていきます。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	よく「みる」	・オリエンテーション 教科書等を鑑賞し、多様な表現形式について学び、「美術Ⅰ」の学習イメージを持つ。 ・「手」の写生	○ ○	○	○	○	a:美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 d:美術作品などのよさや美しさを感じ取り、美術の働きや文化ついての理解を深めている。 b:対象を凝視し、形だけではなく、質感・存在感もつかむ。 c:表現を工夫し、自分の感じたものを描出している。	学習活動の様子 制作の様子 作品
	モダンテクニック	基本技法 「デカルコマニー」 「ドリッピング」 「マーブリング」 「スパッタリング」 「スクラッチ」 「バチック」	○	○	○		a:思いもよらない画面の変化を楽しむ。 b:白い画面にどんな色を、どのように配置するかを構想する。 c:配色、水加減等、水彩の表現を工夫する。	制作の様子 制作途中の作品 作品
	アクリルガッシュを用いた色彩学習	・アクリルガッシュ絵の具を用いて、混色方法や配色関係についてのプリントを仕上げる。 ・平筆、面相筆を用いて「平塗り」という塗り方を覚える。	○		○		a:世の中に存在するロゴや看板、マンセル表色系を参考に、色彩について学ぶ。 c:アクリルガッシュ絵の具の特徴を掴みながら、丁寧に着彩する技法を身につける。	制作の様子 制作途中の作品 作品

	ネームプレート	デザイン 短冊形の画用紙に、自分の氏名をデザインし、アクリル絵の具にて彩色する。	○	○	○		a:自分の名前という最も身近な素材をどうデザインするか、しっかり練る。 b:漢字・ひらがな・カタカナ・英字、また、デフォルメしたり省略したりして、よい形を探す。 c:アクリル絵の具での平塗り。 水加減に留意する。	アイデアスケッチ 制作の様子 制作途中の作品 作品
	コラージュ	デザイン 雑誌、新聞等の切り抜き、マスキングテープ、布、等様々な素材にてコラージュ作品を創る。	○	○	○		A:コラージュという手法を知り、「描く」のとはまた違う面白さを体験する。 b:非日常的な、不思議な画面を創造する。 c:切るだけではなく、ちぎる・しわをつくる等、素材の特性も利用する。	制作の様子 アイデア 作品
	ドライポイント版画	版画 先のコラージュ作品からトリミングした画面を原画にして、原版を作る。	○	○	○		a：前に自分が創った作品から、また違う作品が生まれる面白さを感じる。 b:どこをトリミングするか、何を狙った画面をつくるのか、しっかり考察する。 c:ドライポイント版画では、ニードルの線の強弱や粗密などに留意する。	制作の様子 制作途中の作品 作品

後期	木彫	彫刻 アイデア出し 下描き 彫り	○	○	○		a：平面の板から立体感を感じるものを生み出そうと取り組んでいる。 b:平面の中に空間を感じさせる演出や工夫をする。 c:五種類の彫刻刀を使い分け、自分の作品の表現を深めていく。	アイデアスケッチ 制作の様子 制作途中の作品 作品
	CDジャケットの制作	デザイン この一年で学んだ技法などを用いて、自分の好きなアーティストの CD ジャケットをデザインする。	○	○	○	○	a:この一年で学んだ技法や知識を作品に生かす。 b:曲やアーティストのイメージが他人に伝わるデザイン、配色、文字組を考え制作する。 c: 現存しているデザインとは違った、オリジナリティを表現する。 d:制作プリントに、作品コンセプトや制作についての感想を書き、他の学生の作品も鑑賞しあう。	アイディアスケッチ 制作の様子 作品 講評プリント

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。